

歌が生まれる

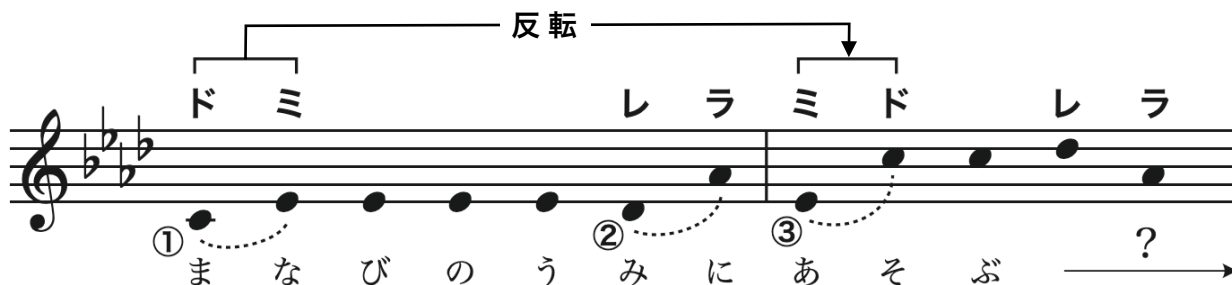
校歌制作レポート 第8回



イラスト：山崎奈緒

前置きなしでいきなり本題

「遊ぶ」と「学海」をキーワードに「私はコレを」と「この学校＝ここで」を、**U・E・D・A** 隠しもやりつつ一筆描きで…を、こんな風にやってみました。「夢」「未来」というリクエストにも応えようとしています。



「UEDA」をイタリア音名に置き換えると「ドミレラ」になる → 第1回レポート参照

コレは「遊ぶこと」であり、**ここ**は学海と呼ばれる歴史的背景を持つ上田にある学校だ、と。それを、**UEDA**を音列化した旋律に乗せる。

2回繰り返される**ドミレラ**は、2回目に最初の2音を反転させて ① → ② → ③と跳躍幅を増やし、時の経過とともに音程が広がっていくフォルムに「夢」や「未来」のイメージを重ねる、という意図。なぜ **あそぶ** なのか？ リズムはどうするのか？ **あそぶ** の後の余っている**レラ**は？ それはですね…

町田育弥 Profile

桐朋学園大学で作曲を専攻。中・高等学校教諭、音楽大学講師など常に教育に携わりつつ、作・編曲・演奏活動を展開。作品は、歌曲、室内楽、吹奏楽、管弦楽、劇音楽など多岐におよぶ。著書にピアノ教本「みみをすます」全4巻、歌曲集「あったかい」などがある。2014～2020年まで本学幼児教育学科教授を務めた。現在、本学客員教授、認定こども園恵泉幼稚園（さいたま市）園長。

♪♪♪ 8月21日 レポート

なぜ「遊ぶ」と「命」なのか？

...こうすることにしました。

第1回レポートの時に
思いついた旋律は
無駄ではなかった

かなりの確率でこれになりそう…な冒頭案



音源試聴は次回

唐突に「遊ぶ」と「命」を持ち込んだのは、次のような連想から。

学海 → 信州の鎌倉 → 鎌倉幕府 → 後白河上皇 → 梁塵秘抄 → 公募の言葉

信州塩田平が「学海」「信州の鎌倉」と呼ばれるのは、塩田北条氏が1270年代からこの地にたくさんの寺を建てて鎌倉の文化を伝え、仏教研究をはじめとする学問の拠点としたことに由来します。源頼朝が鎌倉幕府の開いたのは、そのたった2世代ほど前の1192年。同年、頼朝と長く深い関わりがあった後白河上皇が亡くなりますが、この上皇が編纂した「梁塵秘抄」(りょうじんひしょう)という歌集の中に、こんな歌があります。

遊びをせんとや生まれけむ／戯れせんとや生まれけん

遊ぶ子どもの声きけば／我が身さえこそゆるがるれ

「けむ」「けん」は「だろうか？」という推察・推量の言葉。～生まれてきたのは、遊び・戯れるためなのだろうか？～という問いが、子どもの遊ぶ声を聞いて身が揺さぶられるように感じたときに浮かんでくる。「わが身」とありますが、物理的に体がぶるぶるガタガタ揺れるのではなくて、心が揺れるのだと考えていいでしょう。つまり、心が動いて問いが生まれるということ。これは「学び」の原理ですね。そして「遊び」も同じ。「？」と心が動く、で、考えてみる、やってみる、面白い！とまた心が動く、また試す、そうか！と気づく、こうしたら？とまた試す、もっと面白い…この循環。

この地で、この学校で、生き生きと心を揺らしながら、遊ぶように学び、学ぶように遊べたら素敵じゃないか？ 君たち学生一人一人が、そんな風に生きている、という姿、その現象を何と呼ぼうか？ そう考えて「命」という言葉を思いついたというわけです。

公募に寄せられた言葉の中に「子どもの声がきこえる」「子どもの弾んだ声」「園児の笑い声」など、子どもに関する言葉がとても多く、気になっていたのですが、それらが私の中で巡り巡って、でもあっという間に梁塵秘抄と結びつき、こんなフレーズから、いよいよ歌が動き出しました。